



上左／香田勝太《バラ》1930年頃 上右／重文 装飾子持壺付裝飾器台 野口1号墳 下／前田寛治《工場》1925年

郷土にこだわった
倉吉が誇る珠玉の
コレクション

郷土館から引き継いだものを中心に、市民から寄贈された農具などを展示。様々な角度からこの地域の歴史を伝えている。

倉吉出身の人間国宝・大坂弘道の木工芸作品が、近年、コレクションに加わった。木に薄い錫板を嵌入したり、透かし彫りをあしらったりして生み出された独特な模様。正倉院の宝物を復元した実績を持つ大坂の精巧で正確な技は、多くの来場者を魅了している。2014（平成26）年に開かれた大坂の展覧会を契機に、寄贈が徐々に増え、現在コレクションは90点近くにのぼる。作品に関する遠方からの問い合わせも多く、いかに注目されているかがわかるだろう。見どころたくさん倉吉博物館に足を運んでみよう。

倉吉博物館

市民とともに歴史と伝統を
伝え、守る

鳥取県の中部に位置する倉吉市は、関金温泉・三朝温泉・はわい温泉・東郷温泉の4つの温泉地に囲まれた観光地だ。街中には白い漆喰壁に黒の焼き杉板、屋根は赤い石州瓦の建物が建ち並ぶ趣ある街だ。

1974（昭和49）年に開館した倉吉博物館は、倉吉のシンボル・打吹山の麓、打吹公園にある。博物館建設に際しては、市民から多額の寄付が集まった。倉吉には芸術への理解が深いだけでなく、実際に創作活動をしている人も

多いため、「展示を観に来られたい、作品を発表したりするだけでなく、文化談義をしてみたい」と根幹輝雄館長は語る。

美術・考古・民俗からなるコレクション。その美術部門は、油彩画家・前田寛治や日本画家・菅楯彦の作品をはじめとする郷土ゆかりの作家の作品をメインに約1500点を収集している。考古、民俗とともに、「よみがえる古代の美」を掲げ、館の前身となった倉吉



左／大坂弘道《黒柿蘇芳染雲鳥文嵌荘螺鈿香方容「須彌ノ圍」》2016年 中／大坂弘道《黒柿蘇芳染拭漆宝相華文透嵌荘棧花形筆架盒子「羽衣石」》2013年 右／大坂弘道《黒柿蘇芳染螺鈿香小塔「天竺の音」》2017年